

讚美歌21 231 ラテン語聖歌(9世紀)

1 久しく待ちにし 救いの主来たり、
とらわれの民を 解き放ちたまえ。

(くりかえし)

喜べ、インマヌエル来たりて救いたもう。

2 この世に打ち勝つ 力の主来たり、
勝利のことばを 与えよ、われらに。

3 やみの夜をてらす 光の主来たり、
暗き雲はらい 喜びをたまえ。

4 われらを導く 望みの主来たり、
み国の扉を いま開きたまえ

Veni, Veni
Emmanuel

Veni, veni Emmanuel;
Captivum solve Israel,
Qui gemit in exilio,
Privatus Dei Filio.

Gaude! Gaude! Emmanuel,
Nascetur pro te, Israel!

Veni, veni, O Oriens;
Solare nos adveniens,
Noctis depelle nebulas,
Dirasque noctis tenebras.

Gaude! Gaude! Emmanuel,
Nascetur pro te, Israel!

Veni, Clavis Davidica!
Regna reclude caelica;
Fac iter tutum superum,
Et claude vias inferum.

Gaude! Gaude! Emmanuel,
Nascetur pro te, Israel!

Veni, veni Adonai!
Qui populo in Sinai,
Legem dedisti vertice,
In maiestate gloriae.

Gaude! Gaude! Emmanuel,
Nascetur pro te, Israel!

申命記 第32章52節 「あなたは、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地を目の前に見るが、その地へ入っていくことはできない。」（新改訳版）

クリスマスまでの4週間たらずとなりました。今年は、世界中で多くの人たちが、感染拡大と経済的困難のなかにあります。私たちは、あきらめることなく、時が来るまで、互いに支えて耐えねばなりません。

悲惨な年には、クリスマスが来ないなどということはありません。逆説的ですが、悲惨な状況でこそ、本当のクリスマスを祝えるのです。古代教会の時代には、アドベントは、悔い改めの期間で、実は、喜びの季節ではなかったさえ、考えられているのです。

中世後期から、欧州の諸都市では、アドベントにクリスマス・マーケットが開かれるようになりました。そのシンボルであったお菓子（レープクーヘン）は、子どもや高齢者など、栄養に欠け心身の弱い人たち中心に配布されたようです。そもそも、このお菓子には不安や痛みをやわらげ、心身の活力を回復する効能のあるハーブなど多様な成分が含まれます。残念なことに、今年は、コロナ危機の感染対策のため、欧州のクリスマス・マーケットのほとんどが中止に追い込まれました。

神様は人類の悲惨を放置されないのですから、悲しさと弱さがあるところこそ、私たちはしっかり守らねばなりません。

アドベントの季節に、申命記(「モーセ五書」の第3番目)の、この下りが読まれるのは、なぜでしょうか。それは、次のように、あきらかにできるでしょう。

400年以上もエジプトで奴隷の身であったイスラエルの民を、エジプトのファラオから救い出したのは、当時80歳に達していたモーセと、その兄のアロンでした。二人の対照的な姿が目には浮かびます。これは、微妙な組み合わせだったのです。

兄アロンは、司祭で、正装し着飾り、弁舌が巧みでした。しかし、時に、人々の不満が渦巻き、ある時は熱狂に満ちる見える世界を、治めねばなりません。

弟モーセは、預言者で、素朴・質素な身なりで、弁舌に劣り、アロンの助けを必要としつつ、神のことばという、見えない世界との間を取り次いでいました。

この二人は、ある時は補完しつつ、他の時は、緊張に満ちていました。

モーセが、シナイの山に登り、負従順な民に対し、神の契約の板を持ち帰ります。ところが、モーセ不在の間、不安に取らわれた民は、金を集めて子牛の像をつくり、拝むようになりました。厳しい荒野で40年も生き抜く時期は、民にとって、いかに苦しく、困難だったか、想像を絶するものがあります。

民は、見えるものを求めて熱狂し、見えない神の働きを待つことができません。アロンは、しばしば民を抑えられません。そのたびに、モーセは、自らの民が、厳しく裁かれ罰せられないように、祈らねばなりません。

荒野で40年もの時が経過し、イスラエルの民の世代交代が進みます。そして、アロンの死後、モーセは、カナンの地を臨むネボ山に登り、そこで約束の地を見渡しますが、その地にはいることなく死ぬのだと告げられます。彼は、既に120歳になっていました。

目に見える現実なしに、特に経済的な充足なしに、人々が苦難を長く耐えることが困難なことは、コロナ危機の現代でも変わりません。私たちは弱すぎて、不安と恐れにとりつかれてしまいます。苦難のなかで私たちが生きるために、目に見えない未来への希望が必要です。望みは、自分が生きている間に満たされないかもしれませんが。時が満ちるまで耐えれば、進む力が与えられます。クリスマスは、弱さと悲惨さがあふれたところに、神様が来られることを示しています。

アロンが、目に見える形で民に応える存在だったとすれば、モーセが、目に見えない希望を指し示し、弱り悲しむ人たちを支えて新たにし、あきらめずに生きることで、民が約束の地にはいるという奇跡は起きたのです。

私たちの計画や思いを超えたところで、新たな世代が新たな役割を担い、新しい世界に入れることを期待し、勇気を持ちましょう。コロナ危機にこそ、私たちは、真のクリスマスを祝えるのです。